

アクト

第26号

2014年1月15日発行

九州国立博物館を愛する会

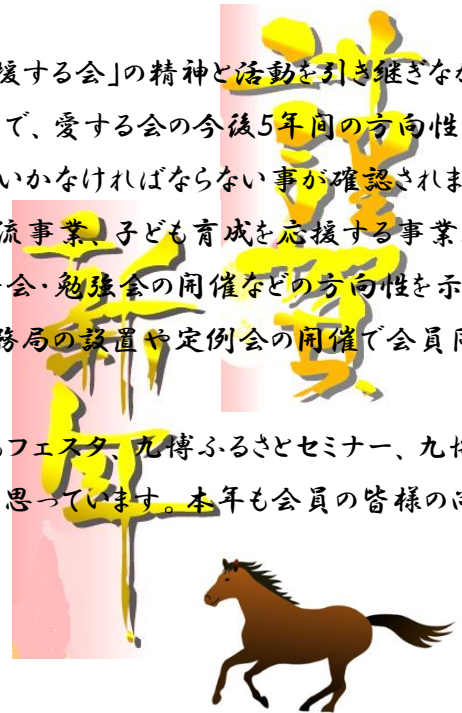
ごあいさつ

九州国立博物館を愛する会
理事長 前田 和美

あけましておめでとうございます。

去年は、愛する会は会設立以来7年が過ぎ、「誘致する会」「支援する会」の精神と活動を引き継ぎながら、新しい会へと生まれ変わるため、組織変更等を行いました。その中で、愛する会の今後5年間の方向性を検討し、私たちの博物館支援活動は「共生から協働」へと変化していかなければならない事が確認されました。また、愛する会の事業では市民サイドからの楽しいアジアとの交流事業、子ども育成を応援する事業、九博と市民との「かけはし」事業、地域との連帯事業、自主的研修会・勉強会の開催などの方向性を示しました。この様な事業を充実させ、達成するには愛する会独自の事務局の設置や定例会の開催で会員同士が楽しく交流することが必要です。

本年もベトナムにおける「日本文化展」の支援旅行、九博子どもフェスタ、九博ふるさとセミナー、九博デーなど数多くの事業を展開し、九博と地域を盛り上げて行きたいと思っています。本年も会員の皆様の尚一層のご支援をお願いしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



大宰府政庁跡入口、南門跡から大野山(四王寺山)を望む風景。九博四階の入口に大宰府政庁南門の十分の一の模型がありますが、その前の石段だけがその当時の様子を残しています。千年もの昔、高さ十八・二メートルの壮大な南門が建っていたと想像するだけで、ロマンを感じます。



第2回九博ふるさとセミナー報告

交流委員会 田中宏明

九州国立博物館を愛する会を身近に感じてもらう「九博と市民のかけはし事業」の一環として第2回九博ふるさとセミナーを春日市「奴国の丘歴史資料館」にて開催させていただきました。

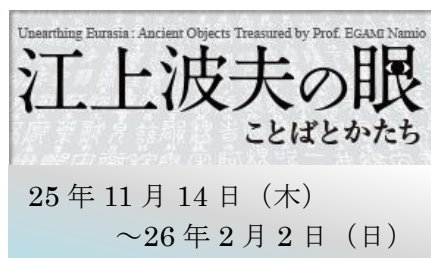
第1部では、九博の学芸部企画課長臺信祐爾様より特別公開中の「江上波夫の眼 ことばとかたち」と題した展示品の解説を頂きました。コレクションの品々



から江上波夫氏¹が西アジア考古学の発展に大きな役割をはたしたことなど、生涯を通じて

収集した個人コレクションの解説はとてもよかったです。

また最後にこの展示は九州ではなかなか目にすることがないと聞いたのでさっそく九州国立博物館に足を運んで実際に自分の眼で確認したいと思います。



第2部では奴国の丘歴史資料館の学芸員井上義也様より「須玖岡本遺跡」についての解説を頂きました。弥生時代の春日市周辺がどのようなまちでどのよ

うな生活をしていたのか想像ができるような解説でその時代にフィードバックした感じで聞き入っていました。

私にとって今回のセミナーは、人物の研究や地域の歴史を学ぶことができました。

また、今回、春日市を中心にたくさんの参加を頂きました誠にありがとうございます。



今後もいろんな地域でこのようなセミナーの開催を企画しています。会員の皆様には是非友人等を御誘いの上参加してみてもはどうですか？



¹江上波夫（1906～2002）氏は考古学者、東洋史学者で文化勲章受章者です。その研究の足跡は広くユーラシア全域（ヨーロッパとアジアをあわせた広大な地域）に及んでいます。戦前のオロンスムにおける遺構に関する研究、戦後には東大のイラン・イラク調査隊を指揮するなど、西アジア考古学の発展に大きな役割を果たされました。九博 文化交流展示室 関連第8室では、氏の膨大な個人コレクションを引き継いだ横浜ユーラシア文化館、東京大学、古代オリエン特博物館などから借用された文字資料や美術・考古作品が展示されています。多岐に亘る収集に江上さんのユーラシアに向けられた情熱を感じました。

ピッカ美化隊 平成 25 年秋季花植え活動報告

ピッカ美化隊 橋本久弥

去る10月26日（日曜）に、馬場区子ども会皆さん、（子ども13人、保護者7名とピッカ美化隊12名の合同活動として実施したものです。当日は前夜来の雨模様でしたが、隊員の晴れの強運にて催事時刻頃は好天気となり無事終了し、子ども達や保護者に満足の言葉を戴きました。



当隊がお引き受けしている花壇等の維持管理にて、これを活用することにより地域の理解と協力が定着、かつ評価されつつあるのではどうぬぼれ?ているところです。次の主要行事は3月下旬に電気記念日に合わせた市・企業との合同清掃活動です。

ところで、当ピッカ美化隊は愛する会員の皆様が いつでも、好きな時に、さぼり自由に参加できる仕組みです。特に賛助会員とされておられる会員の皆様を広くお誘いいたします。メリットは暫く参加されているうちに愛する会の全体の流れや、動きが見えてまいります。

基本活動日時： 毎月 第1月曜 第3金曜

西鉄太宰府駅10時30分集合

但し、正月・3月の金曜日・6月の金曜日・10月の金曜日は休止・変更があります
問い合わせは愛する会事務局へ

「九博子どもフェスタ」も一緒に楽しんで！



日時： 平成26年 2月 23日（日） 10:00～16:00

会場： 九州国立博物館エントランスホール・ミュージアムホールほか

事業委員会 松岡良一

「九博子どもフェスタ」は今年で6回目になります。

このイベントは子どもたちに「将来の九博ファン！」に成って欲しいとの願いもあつての開催です。毎年、ボランティアの皆さんが工夫を加えた各種ワークショップを子どもたちが保護者の方と一緒に目を輝かせて楽しみ・学んでいます。大人だけの参加もできますので賛助会員の皆さまも特別展「国宝大神社展」観覧と共に一寸だけワークショップを楽しんでみませんか！

尚、このイベントをお知り合いの方にもご案内ください。

詳細内容はチラシ・九博を愛する会ホームページ(HP)・九博HPをご覧ください。

尚、NTTハローダイヤル Tel 050-5542-8600 でもご案内いたしております。



又、特別参加として筑紫地区児童画展（筑紫地区小学校 48校各学年 1枚の優秀な作品約300点）が2月18日（火）～23（日）までエントランスホールで同時開催されます。

会員の皆様のご来館を心からお待ちいたしております。

特別展



への誘い

(九州国立博物館 主任研究員 楠井隆志)

日本人は古来、自然のなかに人知を超えたものを感じ、山、岩、木など自然物のなかに神を見出し、^{おそ}畏れ^{うやま}敬^{まつ}ってきました。やがて神々を祀る神社が建てられ、祭神の調度品である神宝や、祭神の姿を表した神像などが作られました。神社は、地域の生活や文化の中心となる神聖な場所として^{そんすう}尊崇され、このような神像や宝物が大切に守り伝えられてきました。

この展覧会は、伊勢神宮第62回^{しきねんせんぐう}式年遷宮を機に、神社本庁をはじめ日本全国の神社の全面的な協力を得て、神社の宝物や日本の神々に関する文化財をまとめた形でご覧いただくものです。全165件の展示作品のうち、国宝が57件、重要文化財が65件、県・市指定の文化財は20件を数え、国宝をはじめとする指定文化財の数が全点数の85%を超えるというたいへん豪華な内容となりました。日本全国の神社に守り伝えられてきた宝物の数々が、2014年の春、ここ九州国立博物館に大集結するといっても過言ではありません。

展覧会会場では、まず自然界にひそむ神々の原風景を眺めていただいたあと、古代における原初的な祀りの様子や神話の世界をご紹介し、いにしえの神宝の華麗な美の世界へのご案内します。そして、社殿を中心とする神域を描いた絵画、神々に捧げられた宝物の数々、神の姿が表現されたさまざまな彫像や絵画をご覧ください。とくに最終章の「神々の姿」では、神像彫刻に囲まれた空間が出現します。通常まず拝観することのできない神像の後ろ姿までご覧いただけます。仏像とはまったく異なる「神々しい何か」、すなわち神像特有の神聖性や日本的な造形感覚を十二分に感じていただけたらと思います。

展覧会のポスターは、和歌山・熊野速玉大社の国宝・熊野夫須美大神坐像の尊顔を大きくご紹介しております。「神、いざなう」というコピーは、夫須美大神の異名「イザナミノミコト」と「誘う」をかけました。ふくよかで麗しく、それでいて深遠な神威にあふれる大神の尊顔に導かれ、多くの皆様にご来場いただきたいと思っています。この「国宝 大神社展」が、私たちの祖先が神社とともに歩んできた歴史、そこから育まれた文化と伝統などに触れるまたとない機会となり、観覧後に身近な神社をあらためて訪ねてみるささやかなきっかけとなるならば、これ以上の喜びはありません。



国宝 熊野夫須美大神坐像
和歌山・熊野速玉大社

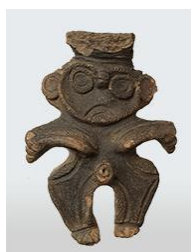


トピック展示はミニ特別展



期間:平成 25 年 12 月 10 日(火)～
平成 26 年 2 月 16 日(日)
場所:九博 文化交流展示室
関連 第 9・10・11 室

18 世紀から 20 世紀初頭にかけて収集されたアイヌの人たちの生活文化を語る資料が、ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民俗学博物館(通称クンストカメラ)に多数収蔵されています。今回厳選された 140 点と所在が知られていなかった幕末の絵師・平沢屏山によるアイヌ絵 3 点が日本では初公開で展示されています。千島、サハリン(樺太)、北海道アイヌの資料が収集者や収集年、収集地等が判明しており、また日本にないものもあり大変貴重な資料です。これらの資料を通してアイヌの人たちの歴史、生活文化に思いをいたす貴重な機会ではないでしょうか。



発掘された日本列島 2013

期間:平成 26 年 1 月 1 日(水・祝)
～2 月 16 日(日)
場所:九博 文化交流展示室

毎年全国で約 8,000 件近く発掘調査が行われているそうですが、私たちがその成果に触れる機会はそうありません。この展覧会は近年特に注目された出土品を中心に地域を巡回し紹介

されています。今回は「陵墓の埴輪」、「東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護」また九博のみの地域展として「神話のふるさと 日向の考古学」が開催されます。この機会にぜひご覧になってください。

九博豆知識

九州国立博物館を支える重要設備に「蓄熱槽」があります。地下 2 階の広大な空間(58m×22m)に、巨大なタンクが設置されています。「氷蓄熱槽」と「温熱蓄熱槽」「サブ熱源蓄熱槽」がありますが、今回は、「氷蓄熱槽」をご紹介します。

- ① 1 基あたり蓄熱量 7,980MJ (1,900Mcal) の熱を蓄熱することができ、これが 7 基設置されています。全体で 55.86MJ、夜間、深夜電力で蓄熱し、昼間、この熱を放熱して空調機の冷水をまかなっています。
- ② 蓄熱完了温度は-5 度に、放熱完了温度は 4 度に設定されています。
- ③ タンクの自重は 11 トン、運転時は 57 トン。
タンク内部には、水の入った小さなボールが 8 万 3350 個入っており、このボールに蓄えられる熱量は、0 度の氷に換算すると 166 トンになります。

※ MJ=メガジュール ※ ボールの大きさは野球ボール程度



次回は「温熱蓄熱槽」と「サブ熱源蓄熱槽」をご紹介します。



九州古代史のカギを握る磐井の里の見ごたえのある展示物

八女市立「岩戸山歴史資料館」は昭和59年11月23日に北部九州最大の6世紀に築造された岩戸山古墳の横に建てられました。墳丘長135m、幅92mの古墳を案内して下さったのは「岩戸山・乗場古墳を守る会」(橋爪征夫代表)「岩戸山文化財案内ボランティア部」の皆さん。お揃いのかすりの羽織で暖かくお出迎え下さいました。



外観

この古墳は被葬者と築造時期が正確に推定される、日本では数少ない古墳です。古代史の重要な事件「磐井の乱」を巡るヤマト政権との対立は邪馬台国との関連、継体天皇と筑紫君磐井氏の間をめぐり、大きな古代ロマンの中に輝いています。



石人

「日本書紀」の信頼性にある意味真っ向から疑問符を投げかける磐井の乱の実相が少しずつ解明されるにつれ、筑紫君磐井氏の誇り高い自主独立の精神が宿るその本拠地こそが、矢部川の北に広がるこの八女の地でした。岩戸山古墳の周りは「守る会」の皆様のご尽力でごみひとつ落ちていない美しさ。橋爪さんの解説も慈愛に満ちて“心”が伝わります。

古墳を一巡りして資料館へ入るとすぐのジオラマで筑紫磐井の地をまず俯瞰する事ができます。大小300以上ある古墳の形態は6世紀頃この地に何らかの大きな変化が訪れた事を物語っています。

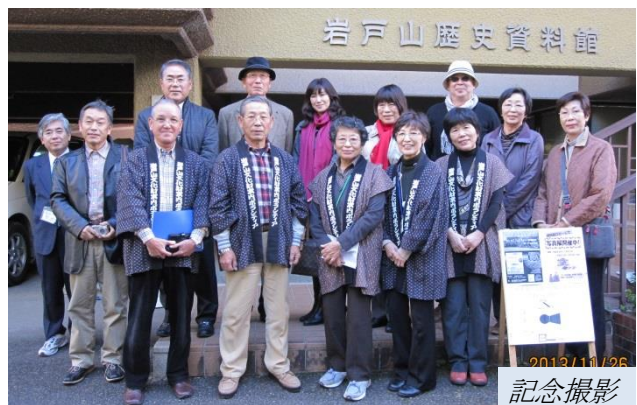
さらに中へ入り副葬品や、出土品の素晴らしさに目を見張りました。



石馬

埴輪などは勿論ですが、ここには他であまり見られないく石人>やく石馬>が見られます。中にはまわしをした相撲取りの太い石像があり、相撲という儀式がこの頃からあった事がわかります。盗掘をまぬがれた黄金の耳飾りや鉄製の鎧や馬具は磐井氏がかなり大きい勢力を持った豪族であった事が偲ばれ、「九州王朝説」もむべなるかなと思わせる豪華さでした。しかし、ここでもまた、この資料館が見ごたえある面白いものを感じるのも案内の皆さんの心のこもった解説あればこそです。

「岩戸山・乗場古墳を守る会」は平成16年に結成されました。文化財の清掃をしようという事から始まったそうです。年会費は千円。現在80名の会員がいらっしゃいます。私達と同じ助成金もなく手弁当での参加。会則や面倒くさい規則もなく自由に活動を楽しんでいらっしゃいます。懇親会では久しぶりに、本当においしい八女茶を頂き、太宰府の梅が枝餅と一緒に皆で頂きました。



記念撮影

話が尽きず止まりません。案内ボランティアの皆さんの心温まるおもてなしに、帰るのがさびしいほど・・・名残惜しい一日を、どうもありがとうございました。



入り口の受付に「石包丁」を作るキットが売られています。100円
早速買って作ってみました。

「九州国立博物館を愛する会と交流」

岩戸山歴史資料館ボランティア 橋爪征夫

11月26日九州国立博物館を愛する会（8名）と岩戸山古墳文化財案内ボランティア部（5名）と交流、歴史資料館見学後、岩戸山古墳周囲を案内、実際に現場に立つことで、著書や写真で見るよりも感激が倍増されている感がありました。また、現状の古墳と先人たちの伝えや匠の話を交えながら案内し、さらに、案内人個々の体験や幼い頃の情景や古墳から見える自然風景の美しさなどを紹介出来ました。

意見交換会は、資料館内で行い、議題の中心は、設立・沿革・活動目的・活動内容・活動上の課題・今後の展望などが中心になりました。その内容には、いろいろな感動や発見があり、特に活動上の課題が多く、有意義な交流会でした。

案内ボランティア部は、歴史資料館外を中心とした活動になりますが、特別にマニュアルは作らず、案内人の思いに合わせた案内方法を採用しています。案内の他には小学生の古代体験学習（火起こし・狩り体験）をサポートしています。

古墳周辺は四季折々の風景があり、予約を下されば岩戸山古墳周囲を案内致しております。（所要時間三十分から一時間）



| 岩戸山歴史資料館 | | |
|--|------|-----|
| 〒834-0006 福岡県八女市吉田 1396-1 TEL:0943-22-6111 | | |
| ■開館時間 午前9時から午後5時 ■休館日 月曜日 (月曜日が祝日の場合はその翌日) 年末年始 ■入館料 | | |
| | 個人 | 団体 |
| 一般 | 130円 | 90円 |
| 小学生 中学生 | 70円 | 40円 |
| <ul style="list-style-type: none"> 毎週土曜日は小学生・中学生・高校生は無料で入館できます。 団体割引は20人以上からです | | |



アクセス

- [電車]** 西鉄大牟田線西鉄久留米駅より
八女・福島行きバスで「福島高校前」下車
徒歩3分
- [車]** 九州自動車道広川ICより3分



太宰府市から研修生として九州国立博物館にお世話になってはや半年以上がたちました。組織の異なる職場で戸惑いも多かったのですが、博物館のみなさんや関係者、愛する会のみなさんには大変よくしていただき、職務にもやりがいを感じながら充実の日々をすごしています。

振り返ってみれば、私が大学生だった平成6年前後は、「九州・太宰府に国立博物館を」という機運が高まり、地元・太宰府市に国立博物館を設置することが現実的になってきた時期でした。

当時、私自身歴史が好きだったこともあって、初めてこのことを知ったとき「国立博物館に関われる仕事ができれば」と思ったことが市役所をめざすきっかけのひとつでした。

太宰府市役所に入庁してから博物館がオープン、第1期のボランティア募集のときに応募しましたが、残念ながら選ばれず（泣）、なかなか関わりがありませんでした。

しかし、こうしてお世話になってみると、九博との不思議な縁を感じます。

愛する会は、その前身の「九州アジア国立博物館を誘致する会」「九州国立博物館を支援する会」を含めると実に25年も誘致・支援にご尽力されてきたことは、本当に頭の下がる思いです。今私がこうして市役所にいられるのも、博物館の誘致・支援活動にご尽力されてきたみ

なさんのおかげと本気で思っています。

九博は、平成27年には開館10周年を迎えます。九博の設置にご尽力されてきた方々や、今も九博を支えていただいている皆様、地元住民の皆様と一緒に祝い、10周年を盛り上げていきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。



田上氏

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は新たに拡大委員会が発足し、会員増大に向けスタートしました。今年はその成果を踏まえ、愛する会の尚一層の発展の一年になるでしょう。我々広報委員も「アクト」の誌面充実を図ると共に愛する会のPRに更に努めていきたいと思っています。会員の皆様のアイデア、ご意見等ありましたらどんどんお寄せ下さい。お待ちしております。

(松山勝利)

